

にじのかけはし

令和3年9月 第3号
上海日本人学校虹橋校
片桐 里香

希望が丘小学校のみなさん、你好(ニーハオ)! そろそろマラソン大会が終わった頃でしょうか。自分に負けず、走り切ることができましたか?そして、前期の学習のまとめにも入っていることでしょうか。これまでの自分を振り返り、「こんなことができるようになったよ!」と胸を張って自分の成長を伝えられるといいですね!

今回の上海だよりは、「中国の行事」についてお話しします。



【秋はお月見…中秋節】

「中秋の名月」という言葉がありますね。日本では、すすきとお団子をお供えしてお月見をする風習があります。そのお月見の行事を「中秋節」といいます。今年は9月21日でした。もちろん、中国でもお月見をします。そして、この時期に街のあちこちで見られるのが「月餅」というお菓子です。あまり食べる機会がないかもしれませんが、日本にもあります。日本の月餅は中身がだいたいあんこです。ところが、中国は、中身の種類がとにかく豊富! 普通のはあんこはもちろん、白あんやカスタードクリーム、ハスの実のあん、卵の黄身を塩漬したものなど、いろいろなものが入っています。最近では、某コーヒーショップが売り出しているコーヒー味のあんが入ったものや、アイスクリームの月餅なども人気があります。甘い月餅だけではなく、中に肉やエビの入った月餅もあり、上海人はこれが大好き! もちろん、私も大好きです。とってもおいしいですよ。



中秋節が近くなると、どのお店でも入口付近に「月餅コーナー」が登場します。いろんな種類があって、どれを選んだらよいのか悩みます。送る相手に合わせて選ぶことができるお店の工夫ですね。

こちらは「鮮肉月餅」。中身は肉やエビです。保温機の中に入れて温められています。中には豚のひき肉やエビがみっちり入っています。虹橋校の中国語の老師(ラオシー:先生)おすすめめの月餅です。

この月餅をお世話になっているや大切な人に送り合うのが、中国の風習です。お月様と同じ形の月餅には、「家族円満」という意味が込められています。ですから、自分の大切な人の家族が仲良く暮らせますように、という願いを込めて月餅を送り合います。昔は、スイカを送っていたそうです。まんまるお月様をイメージしたものを送り合うのですね。そして、中秋節の日には、家族で一緒にご飯を食べ、家族の時間を大切に過ごす、というのが中国の中秋節。もちろん、中秋節は休日となります。

【同じ中秋節でも、月餅じゃない！】

中秋節には月餅を贈るもの、と思っていたのですが、実は、贈るものが違う地域もあるのだそうです。

右の写真は果物です。なんという果物か知っていますか？
これは、文旦（ぶんたん）という果物です。文旦とは、大きなグレープフルーツのような果物で、日本では鹿児島の名産品です。台南の麻豆地区は、この文旦が名産品。そして、中秋節の頃、旬を迎えます。この名産品を大切な人に送るのが、台南の風習なのだそうです。旬のものをおいしく食べていただく、という温かい気持ちがこもっていますね。

ただし、この文旦、収穫直後のものは、緑色。まだ熟しておらず、とーっっても酸っぱいのだそうです。ですから、1～2週間、そのまま置いておき（追熟といいます）、皮が黄色くなり、しわしわになるまで待ちます。すると、おいしくいただくことができます。

そして、待っている間の2週間に文旦の皮に絵を描いて楽しむのが、台南流！絵の描かれた文旦を飾り、中秋節の日を待ちます。中秋節は、丸いものを食べて家族円満を願う日ですから、皮をむくとまん丸の実が入っている文旦も、中秋節にピッタリの食べ物なのです。旬の果物となれば、おいしいこと間違いなし！

さらに、食べるときは、上手に皮をむき、帽子のようにかぶって遊びます。とても面白い風習ですね！私も、この風習を教えてくださいました子にもらった文旦を教室に飾り、中秋節に皮をむき、次の日に学校に持って行ってみんなで“文旦帽子”をかぶりました！中身は、お弁当のデザートとしておいしくいただきましたよ。

日本でも、お雑煮が地方によって特色があります。それと同じように、中国でも同じ年中行事をそれぞれの地方の特色を生かした楽しみ方をしていることを知り、なるほどなぁと思いました。



とっても楽しい表情の文旦。
熟してしわしわになると表情が変わってきて笑えました！この文旦でみんなが笑顔になりました！

【もうすぐやってくる・・・国慶節】

国慶節とは、日本でいう建国記念日です。中国の建国記念日は10月1日。この日から1週間、学校や会社はお休みとなります。10月1日は、北京の天安門広場で大規模なパレードが行われます。1週間のお休みですから、国民が旅行をするチャンスでもあります。上海は、中国国民にも人気の観光地ですから、ものすごい人が集まってきます。上海で有名な観光スポットである外灘や豫園、東方明珠タワーなどは、あふれんばかりの人・人・人で埋め尽くされます。上海に住む人々の間では、「国慶節に観光地に出かけてはいけない」とまで言われるほど、地方からやってくる人でいっぱいになる上海の街です。とはいえ、やっぱりお祝い気分を味わいたくて出かけてしまうのですけれどね。

中国で生まれた行事や風習が日本に伝わり、日本の生活様式に合わせて日本の行事になっていったことが分かりました。その由来やお祝いの仕方などを知ると、なるほど！と思うことがたくさんありますね。皆さんは、どんな行事が好きですか？それでは、また、再見（ツァイ チェン）！